

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 橋本正巳
新潟県山岳協会
上越市南城町2-3-37
TEL 025-524-7215

事務局 諏訪恵一
長岡市高畑町610-10
TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集
委員会代表 浅野巨寛
TEL 0258-52-3998

少年女子本国体への切符を奪取

第26回北信越国民体育大会山岳競技が、7月30・31日の両日、富山県南砺市桜ヶ池クライミングセンターおよびイオックス・アローザスキー場を会場に開催された。

大会には、選手・監督の応援に当協会役員や県体育協会関係者、そして選手のご両親が駆けつけ、声援を送った。初日は、心配された空模様も正午から行われた開始式と伴に次第に回復し、強い日差しの中で、クライミング競技が行われ、高さ15mのウォールに挑んだ。



表彰状を手にする、女子選手達



縦走少年男子

ターゲット間際には雨が降り出し、選手にとっては暑さ対策から、草地のスキー場が会場とあって、足元の確認へと心配が移った。

応援団は、スタートを待たずに、ゴール地点へと向い、選手の到着を待った。

スタートから20分ほどで、先頭の選手がゴール地点眼下の給水ポイントを通過して行く。地元富山県少年男子の選手が30分を切ってゴールした。その後次々と選手がゴール。新潟県選手は少年女子の活躍が光った。

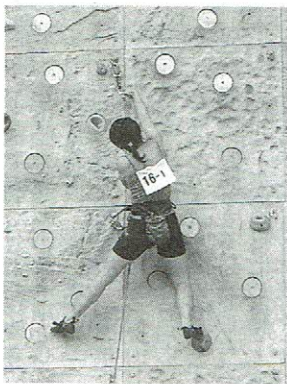
縦走競技の成績は、成年女子第4位、少年男子第3位、少年女子第1位、オープン参加の成年男子は第5位という結果となった。

引き続き、全員スタート地点へと戻り、表彰式が行われ、各種目別、種別ごとに第3位までが表彰を受けた。

県予選会で選考されてから本格的な練習を始めた選手もあり、確実な得点確保が出来なかった点は残念である。

今後の縦走競技廃止に向け、早急な施設拡充と選手育成の定着が望まれる。

二日目の縦走競技は、8時スタートと言うこともあり、朝早くから選手がウォーミングアップを始め、曇りとした空も、ス



クライミング成年女子

第26回北信越国民体育大会山岳競技 新潟県選手団体成績表

区分	縦走競技			クライミング競技			種別成績		
	所要時間	得点	順位	到達高度	得点	順位	合計順位	種別順位	国体出場権
成年男子	1:39:47	65.692	5	45N-	50.111	3	8	4	○
成年女子	1:40:41	81.344	4	75TN	86.560	3	7	4	
少年男子	1:06:39	89.122	3	40+N	44.778	4	7	4	
少年女子	1:17:49	100.000	1	44-N	51.279	2	3	1	○

縦走競技は、1位のチームが100

クライミング競技は、チーム合計到達ポイント÷完登ポイント×50

位は次の通りである。

○成年女子 第4位
選手 須藤吉仕子、田中瑞希、片桐麻由子 監督 稲田春男

○少年男子 第4位
選手 高橋紘弥、吉田拓人、大山嵩進 監督 渡辺正之

○少年女子 第1位
選手 春日萌子、水落香菜、五十嵐祐子 監督 水落竜馬 (オープン参加)

○成年男子 第4位
選手 山田真史、島岡 徹、石川 泰 監督 今井浩二

報告 事務局長 諏訪恵一

道標 ②

快適な登山(病氣編)グループ・集団登山のリーダーは、もう一度、救急法について研修しておこう。

長岡ハイキングクラブ 藤井 信

(1) 熱中症について
夏になると日常生活に於いても、諸行事の中で熱中症を発病して病院に運ばれる人達も多く、大いにマスコミを賑わした。

グループ登山、集団登山のリーダーは、暑い中の長時間の登山行動は、救急法に精通していなければならぬし、突然、パーティーの中から熱痙攣や意識を失うような症状が発生したとき、初めての体験では、多少の知識があっても頭の中はパニック状態になる。

平然と慌てず冷静に対応する事が大切で、リーダーが慌てているだけでは、パーティー内の士気、行動にも影響を与えることとなる。

行動の変化、行動中に遅れる者、休憩時等には、異状に大汗をかいている者がいたら水分の補給をすすめる。

その際、大量の水分補給は、生体内に吸収されにくくなるため、回数を多く0.2%程度の

食塩水かイオン飲料が効果的である。

熱中症の発生要因は暑さであっても、体調不良時は病気を発生し易く、中年は無理しないで参加を控えることが大切である。

◇霍乱(かくらん)・暑気当りの病。普通、日射病を指すが、古くから吐瀉病もきみ、用いた言葉で、「鬼の霍乱」と云い、普段、頑健な人が珍しく病気になることを例えたもので、熱中症には充分注意しよう。



登高中の水分補給は適切に

新潟県山岳協会専門委員会

指針 ①

中高年登山委員会委員長

山田 弘二

「中高年登山」の取り巻く環境変化を捉え、中高年登山委員会がこれから取り組むべき指針を述べさせて頂きたいと思えます。まず、最初の環境変化ですが、今から10年以上前は、登山とは登山道の有無に係わらずある種の緊張感と心構えを持って望むものだったと思います。ところがその後テレビ媒体を通して「日本百名山」「中高年登山」が紹介されるやいなや、中高年登山ブームに火が付き爆発的な広がりを見せました。このことはファミリー登山の普及も含め、登山が身近なもの手軽なものになったことで好ましいことだと思っています。しかし、その広がりと共に、中高年者の遭難事故が急増、一般登山者を対象とした安全登山の普及が必須となりました。そこで中高年登山委員会では、中高年一般登山愛好家を対象に「登山教室」を開催、当時少なかったツアー登山的要素を含め安全登山の知識・技術を実際の登山の中で指導普及させ

て来ました。これが中高年登山委員会活動の第一期として捉えてよいと思えます。次の環境変化です。中高年登山委員会主催の「安全登山教室」は、5年前では参加応募者はあつという間に100名を越え、お断りする状況でした。しかし、その後特にこの2・3年前から応募者が激減し始めました。この背景には、意外にも次の二つの大きな要因があると考えています。一つは、2年前世界的に大問題となったSARSの影響で海外旅行が激減する中、各旅行社が国内市場の掘り起こしとして中高年者を対象とした登山ツアーを多く企画し、格安の価格で提示したこと。ツアー登山の普及です。二つ目は、従来地元山の開催であった市民登山が、その対象とする山を日本アルプス・百名山などに求める様になったことが考えられます。こうしたツアー登山・引率登山が普及、急増する中、新たな問題が表面化して来ています。企画運営上の安全面の問題です。一人で数十人を引率したり、交通手段の確保のみでの、全くとお任せ登山などです。こうした動きの中で、今一度「登山教室」の意味・目的を考え、運営して行くときに来ている

とあります。具体的には、「安全登山教室」として、今後各山岳会にも依頼が増えると思われる引率リーダーの研修場の設定が必要であると思えます。山岳会メンバーとは異なり、一般登山者を対象に、かつ多くの人数を引率することは容易なことではありません。今後他の委員会の方々と連携を取りながら、中高年登山委員会の第二期活動として進めて行きたいと考えています。

いづれにしても、世の中の動きを捕らえ、意味ある活動を進めて行かなければならないと思えます。皆様からのご指導ご支援よろしくお願い致します。



◀初秋のダイモンジ草

第8回新潟カップ開催される

妙高市の国際アウトドア専門学校のクライミングウォールで県内に於いての普及とレベルアップを目的として第8回新潟カップが開催された。

9月11日 国際アウトドア専門学校にて第8回新潟カップが開催されました。参加者は種別ごとにはばらつきはありますが、総勢26名でした。まずはじめに、スタッフのみなさま、ありがとうございます。少ない人数で行うため、

休みもなく大変疲れたことと
思います。回を重ねるごとに
会場設営はうまくなっている
と思うのですが、スタッフが
少なく毎回難儀します。本紙
をお読みの方、来年はお手伝
いをよろしくお願いします。

選手は若干少ないと思いま
したが、レベルが徐々に上がっ
ていると感じました。背の小
さい選手が背の高い選手より
も登るなど、身長・体重・性
別を問わず、練習を積めば登



新时期結凝灰岩の槍ヶ岳山頂に鎮座する祠

山と岩石

さわがに山岳会 小野 健

④6 日本アルプスの造物主

山は、いつも泰然自若として、どっしりと座して四季の装いを変えながら輝いている。正に神々の世界である。人類は、こうした姿に畏敬の念を頂だき、信仰の対象として、崇拝するようになってから登山詣でが始まった。

槍穂に剣と、高山の頂にはきまって祠があり、頂に立てば、しげんに頭を垂れて何かを祈念する。

自然界は、神の造物と考えれば、自然科学の世界も、神々の本心を知る事から始まるのではないか。

自然は、神業を持ってしても、何億年という時間をかけて創り出されたものだ。それを、人類が、瞬時にして壊してしまうことなど、許されることではない。

自然破壊によって、公害という神の怒りを買うのは当然の結果だ。不動如山といっても、火山や大地震でも来れば一気に変貌するところ、やはり、地球は生きている証拠なのだろう。

次回から、日本アルプスの生い立ちと、そこに山が創られた事件を考えてみる。

【大会成績】

- | | | | | |
|------------|----------|------------|---------|---------|
| ◇ジュニア小学生男子 | 1位 千田雄生 | 1位 清水 | ◇シニア女子 | 1位 辻めぐみ |
| 2位 貴太 | 3位 嶋岡雅 | ◇ジュニア小学生女子 | 1位 太田吹雪 | 2位 千田 |
| ◇シニア男子 | 1位 入山敦 | 2位 古沢勝 | 3位 美 | 西川敏正 |
| ◇シニア女子 | 1位 辻めぐみ | ◇オープン男子 | 1位 小池活磨 | 2位 楠田 |
| ◇オープン女子 | 1位 片桐麻由子 | ◇オープン男子 | 3位 監物隆行 | |
| ◇ジュニア中学生男子 | 1位 山川康平 | ◇ジュニア中学生女子 | 1位 辻みらい | 2位 五十 |
| ◇ジュニア中学生男子 | 1位 清楓 | ◇ジュニア中学生女子 | 1位 嵐妹子 | 3位 加藤郁 |

登山・アウトドアの専門店



新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025) 243-6330(代)

登山・ハイキング・クライミング テレマーク&山スキー



パーマーク
長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>

遙かなり

曲阿加吉瑪峰遠征2004 登山報告書が完成



表紙・坂西徹朗氏
(日本山岳会越後支部)

新潟県山岳協会創立50周年記念事業の一環として、1997年、青海省登山協会との合同隊はチベット高原最奥の国際大河メコン河（中国名一瀾滄江）源流の曲阿加吉瑪峰へ果敢に挑んだ、資料もほとんど無く、あいまみえた曲阿加吉瑪峰は、想像以上の峻険さと悪相の岩の鎖をまとった難峰だった。偵察とルート確定に費やした日数の関係と登山季をわずかに逸したせいもあって、II峰には初登頂したが、主峰であるI峰にはわずかに届かなかった。その後2002年は、ガンシカ峰の遠征を行い、2003年再び曲阿加吉瑪峰を計画したが、折りしもサ

ズの騒動で断念した。7年の時を経た2004年、いまだ無垢の未踏を誇る曲阿加吉瑪峰に改めて挑んだ。西寧から長駆1、200kmを四輪駆動車で1週間あまり、馬で2日をかけ、黄河、長江、両大河の上流を横断して瀾滄江の奥深く、再び曲阿加吉瑪峰にまみえた。

4、800mの広大な大地に広がるお花畑に歓声をあげたのも束の間だった。BC構築の為、キャラバン開始早々に土石流の発生で、主力となるヤクと馬による荷物の運搬が、ほとんど人力に頼らざるを得なかった事、高度の故が、天候の不順が続くなど悪条件が重なってきた。狼の遠吠え



激しかった登攀を終わって(ABCにて)

が聞こえ、夏季なのに、深夜から朝にかけての降雪、一日に四季を凝縮したマイナス10度〜日中プラス30度の世界の中、越後の岳人としてのプライドと粘り、アタック隊は落石と青氷の高難度の岩の伽藍を良く制して、頂に立った。ポッカに徹した隊員達の辛苦の程は云うまでもなかった。会報編集委員会 浅野巨寛

◎遙かなり曲阿加吉瑪 2004年チアジャマ I峰登山報告書

☆頒価

¥1700+300(送料)

申込問合せ先

〒954-10005

見附市戸代新田町194-12

松坂良一(日本山岳会越後支部)

☎0258-6310733

郵便振替口座

00580-1182032

(松坂良一名義)
住所、氏名、明記お願

いします。

行事案内

第41回自然保護研修会が 開催される

好評にて参加者も増加中の自然保護研修会がこの秋も開催される。

◎主催 新潟県山岳協会

◎主管 新潟県山岳協会自然保護委員会

◎日時 平成17年10月15日

(土)〜10月16日(日)

◎場所 上越市安塚区須川 11497

グリーンパークぶなの森

☎025-5931211

◎日程 ●15日14:00受付

15:00開会・講演 16:00懇親会。

●16日 5:00起床 6:00移動 7:00菱ヶ岳登山

14:00解散。

◎講師 秋山和喜(安塚の自然) 自然の友。

然) 自然の友。

然) 自然の友。

然) 自然の友。

然) 自然の友。

然) 自然の友。

然) 自然の友。

然) 自然の友。

然) 自然の友。

然) 自然の友。

然) 自然の友。

然) 自然の友。



海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス

国土交通大臣登録旅行事業第003号(ATA)の認定 (2) 日本旅行業協会会員
本社 新潟県長岡市東町1丁目3番5号

http://www.uks.co.jp

□長岡営業所

〒940-0084 長岡市幸町1丁目3番5号

☎(0258)33-7123

□新潟営業所

〒950-0916 新潟市米山3丁目2番11号

☎(025)246-2266

- ◎持参品 嗜好品、豚汁あり、☆日帰り登山装備、シェラフ、●参加費¥2,000 ●日帰り参加者は¥1,000
- ◎申込先 〒950-10210
- 新潟市横越上町2丁目11-6
- 自然保護委員会 本間一人
- 申込方法 ハガキ、FAX 025-138512225
- 同電話。
- ◎締め切り 10月10日
- 新潟県山岳協会
- 会長 橋本正巳
- 自然保護委員長 本間一人